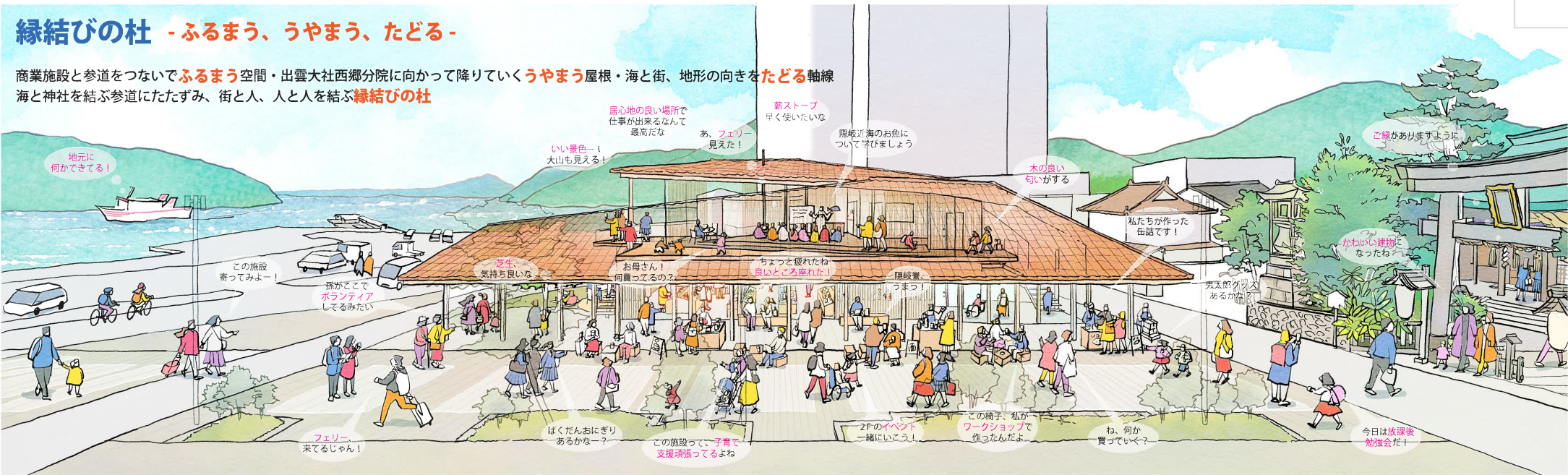


緑結びの杜 - ふるまう、うやまう、たどる -

商業施設と参道をつないで**ふるまう**空間・出雲大社西郷分院に向かって降りていく**うやまう**屋根・海と街、地形の向きを**たどる**軸線
海と神社を結ぶ参道に**たたずみ**、街と人、人と人を結ぶ**緑結びの杜**



隠岐の風景を活かす



海と街から見える活動

海に向かって開いた2階の交流スペースでの活動は、港や出入りする船からよく見えます。島を訪れる或いは島を出ていくという重要なシーンに**活**発な活動の姿を添えることは、**島の活力**を伝えることにつながります。



海とすぐす風景

西郷湾に入港してくる船、出港していく船を眺めることは隠岐の大切な思い出の風景です。**海に向かって開き海を見て日々を過ごす**ことができる施設とします。

隠岐の軸線

参道に面し海に開く立地とマスタープランを元に、建物に**3本の軸線**を設定します。
・参道とつながる**屋根**
・日本海への**視線**
・うみまち通り



風景の構成要素

隠岐の島内の風景を読み解き、学んだ構成を活かした**隠岐らしい建築**を目指します。
未来を見据える建物の中に、懐かしい見慣れた要素を折り込むことで過去と未来をつなぎます。



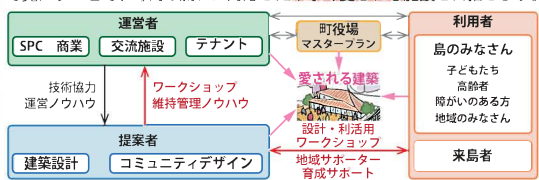
参道とつながる軒下空間

出雲大社西郷分院の参道と**並行**する、大きく長く面する下屋を設け、**賑わい**を演出します。商業空間の延長にとどまらず、休憩や井戸端会議など**多様な使い方**が可能。気候や天候により伸び縮みする空間。



コミュニティデザインの視点を入れて進めるEOI事業

様々な分野の大学教員で構成する**コミュニティデザインの専門家と建築設計者の共同提案**です。EOI事業として商業施設や交流スペースの運営者の方々と協働するにあたり、離島の経験も含めたコミュニティデザインの豊富なノウハウを活かして、**島のみなさんのニーズ**や思いを設計初期段階から運用開始後まで**継続的に反復**できるよう努めます。開催するワークショップが施設を訪れるきっかけの一つとなり、**利用者同士のコミュニティ**を形成し、施設と地域をつなぎます。施設の使い方を定期的にみながら見直すことで、時代の流れに対応した**永く愛される施設**を目指します。



天候により伸び縮みする空間

暖かい気候の時は、扉を開け放して**商業空間と一体的に利用できる半屋外テラス**なり、雨や雪の日には**屋根付参道**となります。参道に隣接する土間は地元の特徴的な石を活用した、**隠岐の自然を活かす計画**です。



島内施設の交流発信拠点

恵まれた立地と用途を活かす

人や物の交流拠点である島の玄関口に位置する複合施設であることを活かします。学校や保育、福祉や高齢者サロン、宿泊施設や飲食店など、**島内各所の施設と連携し、サテライトの役割**を担いながら、一つの場所に集まる利点を活かし、**互いに交流し外部に発信するハブ**として機能します。

島の魅力を伝え、愛着をもつ仕組み

隠岐の特徴的な材料である、石州瓦、隠岐杉や黒松などをふんだんに用い、建物自体を地域材料のショールームとします。それらの素材を用いて特産品を開発するワークショップを開催します。開発した商品を商業施設で扱ったり、施設内で使う家具や什器などを作ることで、地元の方や来訪者にその魅力を伝えます。島外の方に島の魅力を伝えようすることは、住民の方が改めて**地域の魅力を見つめる**ことに繋がり、より**地域を誇り**に思い、**関わる将来世代が島に愛着をもつ**ことに発展します。

海を眺める大空間

訪れた子どもたちや高齢者、地域の方が日々を過ごす2階交流スペースは、海に向かって開いたひとつながりの**大空間**とします。常に海を感じ、相互の活動の気配を共有する場を目指します。



子どもや障がい者、高齢者などあらゆる方が問題なく使える施設となるよう、多機能トイレやゆとりあるエレベータを設置します。利用者相互に様子を合えるオープンな空間とし、職員から室内の見通しが効く位置に事務室を配置します。



出雲大社
西郷分院

駐車場から入れず
アクセス出来る動
屋敷のある軒下に
座って休養出来るベンチ

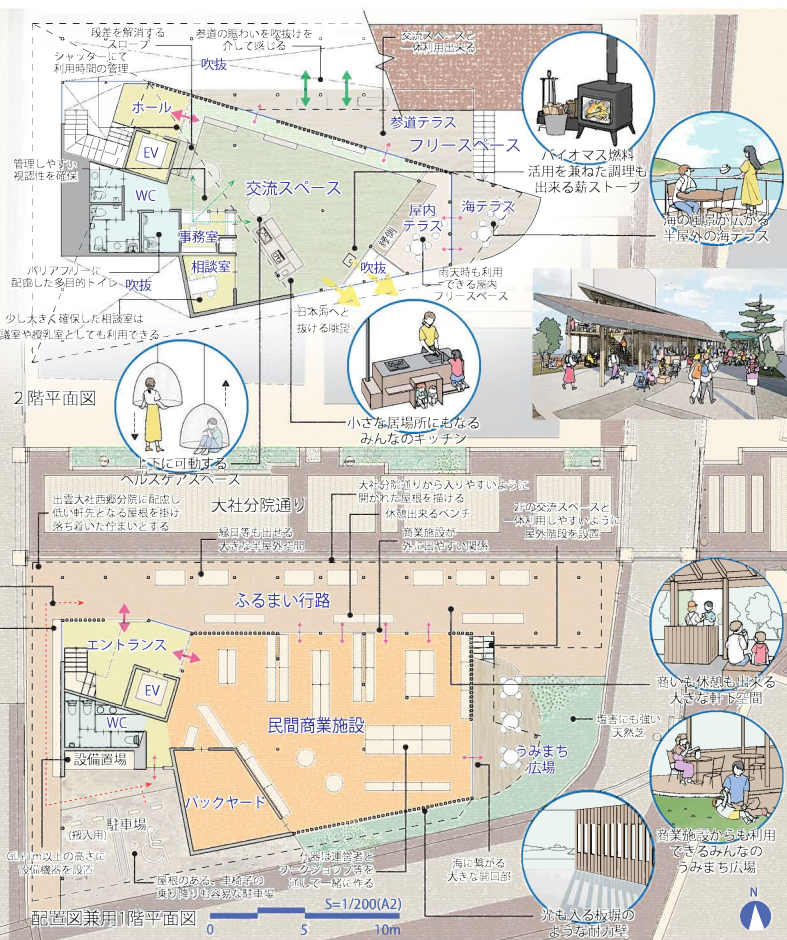
外部利用も積極的に検討

柱梁などの木造軸組や正角耐力壁に
隠岐産の杉、床やデッキ材には隠岐
産の黒松を利用します。地元の材で
作ることで隠岐の建物としての愛着
を生み出します。

施設で使う家具や建具、什器を運営
者や地域住民との地元材を用いた
ワークショップで作成することで、
地元の良さを知り、発信する一つの
契機にすることも可能です。



できる限り島内で地産地消を行えるよう工夫することで、輸送コストを削減し、CO2削減に寄与すると共に、地域経済の循環と技術の発展に貢献します。



柱梁などの木造軸組や正角耐力壁に
隠岐産の杉、床やデッキ材には隠岐
産の黒松を利用します。地元の材で
作ることで隠岐の建物としての愛着
を生み出します。

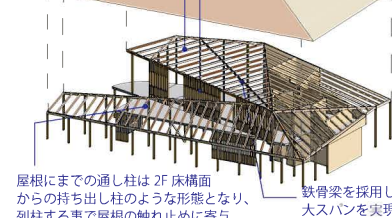
施設で使う家具や建具、什器を運営
者や地域住民との地元材を用いた
ワークショップで作成することで、
地元の良さを知り、発信する一つの
契機にすることも可能です。

隠蔽の木材を利用し、島内で扱える製材長、手刻みでできる加工などを用いて、特殊な技術を必要としない在来組工法とします。

適材適所で鉄骨を併用し、木材材にとっては無理のない合理的な構成として大きな空間を実現します。

材長を最大 5m 程度とし、隠蔽産材を採用出来る計画

厚物合板による剛強な水平構面



島内で加工できる隠岐材の正角材をビスを用いて透かし工法で施工します。合板耐力壁で46条の壁量を確保した上で、役割の付加的な耐力壁として扱います。沿岸部で見られる囲除け堀を思わせる、隠岐に馴染む

一部に鉄骨を採用した実例

**隠岐の風景から
生まれた耐力壁**





生まれた耐力壁





- ・正角材をビスを用いて束ね透かす
- ・特殊な工場が不要で島内で製作出来る

高性能な外皮

厚みのある木材で構成する正角耐力壁は、木材自身の断熱性能と日射遮蔽性能を活かして省エネ効果が高い壁です。ガラスはLow-E複層ガラスを採用し、**建物自体の断熱性能を高く**することで冷暖房負荷を低減します。

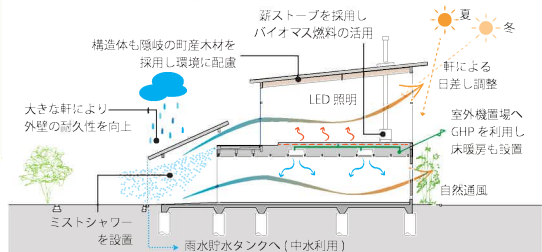
省エネ・CO₂削減に寄与する空調システム

空調はガスヒートポンプエアコンを採用し、床暖房を取り入れます。バイオマス燃料を利用する薪ストーブを設置し、**CO₂削減**に寄与します。歩道側の軒下空間にはミストシャワーを設け、暑い日の外気温を下げた快適な環境を作ると共に、**室内の冷房負荷を低減**します。

自然を取り入れるバッシブデザイン

深い軒を出し、直射日光を制御します。気候が良い時期は冷暖房機器に頼らず、**自然採光・通風を積極的に取り入れるバッシブデザイン**とします。

ランニングコストの低減を図り、ZER Readyを目指す



来訪者

近隣の方

WS・イベント
企画・参加

子どもサポーター
子どもたち

保護者
障がい児

WS・イベント
企画・参加

1F商業会社

保護者同士の繋がり

島のの方々

WS・イベント
企画・参加

学生

WS・イベント
企画・参加

運営者

障害のある方

提案者

サポート

企画者・参加者
同士の繋がり

町役場

	1 階民間商業スペース SPC(特別目的会社) テナント利用者	2 階交流スペース 子どもたちの居場所 福祉サービス	高齢者サロン 地域コミュニティハブ	隠岐の島町 町民のみならず、訪問者 建築設計・コミュニティデザイン	
設計期間	運営WS+ 建築調整会議	木材調達WS (木材調達コーディネーター によるサポート)	隠岐の島県材活用WS (オリジナル瓦、石)	WS以外にも 定期的に町を 回遊し関係者の 意見を反映する	企画運営会議 →施設の利用方法の協議 →運用開始後のWS 開催調整 →運営者リーダー体制の整備 →地域企業・団体の育成 →商業企業との連携構築 etc....
工事期間		木材活用家具コンペ +製作WS	ベンチ製作WS (木材活用)		
運用開始後 とある 1週間	月 10:00-11:30 kitchen 解放日 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 火 10:00-11:30 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 水 10:00-11:30 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 木 10:00-11:30 kitchen 解放日 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 金 10:00-11:30 kitchen 解放日 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 土 10:00-11:30 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30 日 10:00-11:30 11:30-13:00 13:30-15:00 15:00-16:30	●【人・学】 絵本の読み聞かせ (幼児向け) ← 共催 ●【学・人】 放課後ボランティア常駐 Time ← 共催 ●【食・学】 地元 cafe オーナーと作る 季節野菜のおやつ WS ← 共催 ●【食・学】 地元 cafe オーナーと作る 季節野菜のおやつ WS			

地場産材料を活用
軸組は地元で手に入りやすい一般流通材で構成しています。正角耐力は島内で製材から加工までを想定しているため、輸送コストを大幅にカット。建設時の**イニシャルコスト削減**に寄与します。

大空間を実現することにより内部空間仕切り壁を極力少なくし、必要に応じて家具や建具で間仕切ることができる可変性の高い空間とします。
コストや要望、将来の変化に柔軟に対応します。

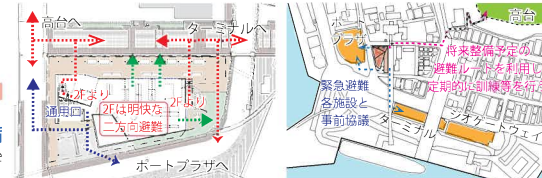
ランニングコストに配慮した設備
省エネ効果の高いLED電球やLow
ガラス、節水型便器や可動時間管理
システムを導入して無駄をなく、人感
センサー照明を採用することで、建
物のランニングコストを抑える
に配慮します。

屋根形状を活かした中水利用
屋根からの雨水を集水するシステム
を構築し、トイレや屋外散水用の
水として利用します。

安全な避難経路

明快な2方向避難動線を設け、万が一の災害発生時にスムーズに屋外に避難できるように計画します。将来的な整備予定も参考に、大地震時の建物から外に出た後の避難ルートをつかりやすく設定。緊急避難（一時避難）場所として近隣高層建物と事前協議。安全な高台への避難はマップや定期的な避難訓練で日頃から利用者に周知できるようにします。

設置場所は津波到達予想高の海拔1m以上に設置し、津波や豪雨の上流浸水時の被害を最小に抑えます。



避難所として想定しないとのことですが、障がい者や高齢者が日々活用する施設としての設えやキッチンがあることから、避難がひと段落し状況が安定した後に活用される**憩いの場**、フェーズフリーな2次避難場所、**情報発信拠点**として活用します。



The illustration shows a bright, open-plan interior space. On the left, there are several round tables with chairs, where a group of people, including children and adults, are sitting and talking. In the center, a staff member in a blue uniform is standing and talking to a person in a wheelchair. To the right, there is a long counter or service area with a staff member behind it. The space is well-lit with large windows and modern lighting fixtures. The overall atmosphere is welcoming and community-oriented.



子どもたちの居場所を核に、障がい児の日中支援、クリエイティブハブ、子ども食堂やフリースクールなど、多様な使い方がスムーズに連携できるような設計段階からワークショップを開催します。運用開始後も、子どもたちを中心に、保護者、地域住民の方、高齢者など、施設利用をきっかけとしたコミュニティ形成をサポートします。地域で島の将来世帯を育み、大人の関係性も作る、子どもを介してみんながなる場所を目指します。